

令和2年度（2020年度）学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	67		学校名	県立筑波高等学校			課程	全日制		校長名	茂呂輝夫					
教頭名	長久保 静江								事務長名	深谷 充						
教職員数	教諭	26	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	6	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	48
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	37	38	33	41	39	36			109	115	8				

2 目指す学校像

1	豊かな人間性と職業観、勤労観を育て、「つくばね学」をとおして地域に支えられ、地域を支える高校生の育成を目指し、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校
2	教職員と生徒の信頼関係を深め、心のふれ合う学年とホームルーム経営を目指し、「正しい判断」及び「自主的行動」のできる生徒の育成を積極的に推進する学校
3	他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるために健康管理を行い、体力や生きる力を育むことができる学校
4	生徒一人一人が各教科、科目の学習や類型の適切な選択をとおして、個性の伸張と確かな学力を身につけることができる学校
5	職業観や勤労観を育てながら一人一人の生徒の特性等に応じた進路実現を図り、社会の変化に対応できる資質能力を備えた地域に貢献できる生徒を育てる学校
6	生徒、教職員、家庭、地域社会の人たちがお互いを理解し合い、支え合うことができる「ともに学び ともに育つ」学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力を身につけるために、習熟度別授業や少人数授業、週1回の小テスト、年3回の一般常識テストを実施している。その結果、徐々に成果は上がってきている。また、進学希望の生徒へ学力向上のために課外授業や土曜講座を実施している。	学習意欲や基礎学力の個人差が大きいため、教員の授業改善と個に応じた学習指導の工夫が必要である。平日における家庭学習が足りないという現状もあり、家庭学習の習慣化が課題である。
進路指導	生徒の進路希望が多様化しており、進路実現のために、定期的に進路ガイダンスや進路別見学会を実施している。ハローワークとの連携により、就職者の内定率100%を6年連続で達成できた。一方、大学・短大進学希望者数が減少傾向にあり、10名前後であった四大・短大進学がは、平成28年度5名、平成29年度5名、平成30年度5名であった。しかし、令和元年度は9名と増加している。	早期からキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育むことで、生徒の就職活動への意欲が高まり、就職実績は好成績を維持している。また、1学年から特進クラスを設置して10年目を迎えるが、大学進学者数及び進学実績は伸び悩んでいるので、改善策を講じる必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着、規範意識高揚を目的としたマナーカードを導入から9年が経過し、授業態度、服装容儀、日常生活等の改善が見られている。また、「Shihou Card(至宝・紫峰カード)」導入により、ほめる指導、生徒の意欲を引き出す取組も7年目を迎え、定着しつつある。	マナー指導で教室を巡回した時は服装を直すのが、先生がその場を離れると元に戻ってしまう生徒がいる。登下校時にも服装指導を徹底する必要がある。「自主的行動」のできる生徒育成のために、内面的な成長を促すことが次のステップにつながると考えられる。
特別活動	学校行事については、生徒主体の運営が行われている。近年では、ボクシング部と弓道部は関東大会以上の出場実績がある。平成29年度の部活動加入率は34.1%、平成30年度は34.8%、令和元年度は34.7%と低い状況にある。	歩く会や百人一首大会などの伝統的な学校行事をとおして、愛校心を涵養している。今後は、学校行事の参加率と部活動の加入率を高めること、新しく取り組む「キャリア・パスポート」の活用が課題である。
働き方改革	教職員は、授業や学校行事のほか、学習面・生活面について生徒一人一人に対して丁寧に取り組んでいるが、教職員数が少ないため、時間的に苦慮している。	学校行事や会議・打ち合わせ等業務の精選、実施方法の改善が急務である。

4 中期的目標

- 1 きめ細かな学習指導を徹底し、生徒の学習への興味関心を引き出し、成績不振等による中途退学者、転学者を合わせて10名以下に減らす。
- 2 正しい制服着用等の指導を徹底する。また、「心の教育」の充実を図り、生徒指導処置（マナーカード指導を含む）を受ける生徒を延べ50名以下とする。中途退学者の中には、入学前に引きこもりや不登校に起因する生徒もあり、スクールカウンセラーの活用や職員のスキルアップを図り「心のケア」を充実させる。
- 3 大学等との連携を図るなど進学指導の充実を図り、四年制大学進学者を20名以上にする。進学者の増加には、受験に対応できる学力の向上が不可欠であり、個に応じた指導体制とともに組織としての指導体制の強化を図る。
- 4 部活動への加入率50%以上を目指し、顧問の適切な配置と部活動関係施設の充実、諸費用等のバックアップ体制を確立し、部活動の活性化を図る。
- 5 学校行事や会議・打ち合わせ等業務の精選、実施方法の改善を検討し、時間外勤務の時間の削減等働き方改革を進める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
I 義務教育段階の学習内容の確実な定着と個に応じた発展的な学習の展開	<ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びの実現を目指すという視点から授業改善を行い、学校設定教科としての筑波サポートタイム(TST)やティーム・ティーチング、少人数授業の積極的な実施により、基礎基本の定着と学習意欲の向上を図る。 ② 生徒の進路実現に結びつく学力を育むため、授業の工夫や改善を図ることにより、授業を充実させる。 ③ 相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。
II 生徒指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、全職員が一体となり生徒指導を推進し、基本的な生活習慣の確立に努める。 ② 「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力を育成する。 ③ 人権尊重の精神を涵養するとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織として対応する。 ④ 教職員自らが人権感覚を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。 ⑤ LD、ADHD や高機能自閉症などの発達障害への理解を深め、カウンセリング的な相談スキルを高めることで、生徒の自立を支援する。 ⑥ 部活動を通して責任感、自立心、忍耐力を養い、規範意識を基盤とした自主的活動ができるリーダー的な人材を育成し、学校活性化を図る。
III キャリア教育の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 自己の進路適性理解に向けた進路講演会、進路関係教材等の利用、「進路の手引き」を活用したLHRを計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。 ② インターンシップ及び「つくばね学」を2年生全員で実施するとともに、3年生B類型では「つくばね学探求」も実施し、キャリア教育を一層推進する。 ③ 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けての取り組みへの理解と協力を得る。 ④ 各大学、短大との連携を積極的に行い、進学実績の向上を図る。また、引き続き就職内定率100%を維持できるよう、就職指導を充実する。
IV 地域や異校種との連携	<ol style="list-style-type: none"> ① 地元の風土や自然及び地域の教育力を生かす「つくばね学」「つくばね学探求」をさらに充実させ、2年生全員及び3年生B類型全員による地域や筑波学院大学と連携した体験的な学習活動を実施し、生徒の「人間力」の向上を目指す。 ② 地域の義務教育学校や筑波大学との連携を図り、百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛を醸成し、地域を担う人材の育成に努める。 ③ 中学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④ つくば市との連携を積極的に行い、地域に根ざした高校として地域に貢献する。
V 働き方改革の実現	<ol style="list-style-type: none"> ① 「きんむくん」の活用により、教職員自らの働き方改革について意識の向上を図る。 ② 学校行事や会議・打ち合わせ等業務の精選、実施方法の改善を図る。